

お疲れ様！矯正展参加15年で得たもの

花苗部 部長 本多 隆



加古川刑務所で毎年秋に開催される矯正展に、当クラブ花苗部として通算15年参加しました。メンバーの高齢化、気候の温暖化によるビオラ苗の開花対策、出品量の確保等を考慮して、残念ですが来年度より不参加とさせて頂きます。そこで目的や成果の視点で15年を振り返り、私なりに総括してみました。今後の花フェス参加などのご参考になればと思います。

◇植物の知識、花苗の育成技術の向上や、地域緑化の活性化

を目的に取組む 参加当初の植物の知識・技術は趣味の世界でしたが、お客様に植物の説明をしたり、育苗のポイントを話したりする中で、責任感が高まり植物の総合的な知識や育成の技術を学ぶことができました。約600ポットを目指すビオラの開花苗づくりが大変でした。お客様は何色かを重視されるので、11月の開花を目指して、8月の発芽とその後の日光管理が重要なポイントで、最後まで50%くらいの成績でした。責任者として一番気がかりなのは天候です。晴れてほしいと2週間前から祈っていました。土砂降りの雨、強風でテントを押えたこと、震える寒さの時もありました。毎年来られた人に会えなくなる寂しさと中止による申し訳ない気持ちが残りますが、今は15年間継続した満足感しかありません。長い間共に取り組んでくれたOBやスタッフの皆様、本当にご苦労さまでした。

腐葉土を作る…SDGsの活動



土の保水性や通気性を高めるなど植物の成長にとって重要な効能をもつ腐葉土を、加古川緑花クラブはたくさんの人達を巻き込んで、何年も作り続けています。花とみどりのまちづくり講座では、腐葉土づくりについての座学と枯れ葉を集めてヌカや油粕を混ぜ発酵させる実習をします。また氷丘小学校3年生の環境体験学習や、ライオンズクラブの清掃活動で集めた落ち葉を使った腐葉土作りと、色々な人達と共に日岡山公園内で集めた落ち葉で腐葉土を作り、活用しています。

リュウゼツランの子供達は今どこに？



前号の花通心で紹介したリュウゼツランも遂に12月中旬、安全のため切り倒され、写真のような切り株となりました。周りに芽生えていた10株の小さな子供たちは今どこへ行ったのでしょうか？ ご安心ください！日岡山公園内のいこいの広場の花壇に、移植されました。興味のある方は是非会いに行ってください。

表紙の花は？



写真は、日岡山公園内の入り口すぐにあるエントランスガーデンの葉ボタンです。今年の干支の巳という文字をデザインしています。前に立つと、葉ボタンのかわいい顔がようこそ日岡山公園へとお出迎えしてくれているようです。